

トプランナーがSDGsを語る！



持続可能なまちづくりへインタビュー全文

問. 市長が考える持続可能なまちづくりについて必要なこととは何でしょうか？

答. 第一に、人口維持が最も重要であると考えます。そのためには、社会情勢も厳しいことを考えると、「働く場を作る」「子育てしやすい環境の整備」が必要です。

例えば、企業誘致はもちろんのこと、学校環境で言えばエアコンを全学校に整備し、より良い教育環境を整えたり、保育環境については、夜8時までの民間保育所を誘致したり、朝7時30分から夜7時30分まで開設されている企業型保育園をサポートするなどの施策を行っておりますが、これらは子育て環境の整備の一環といえます。

また、基幹産業である農漁業についても活性化を行い発展していく必要性があると考えています。

さらには、高齢者の方にあっては、生涯現役という形で健康保持に努めていただくことが重要で、市としてはパークゴルフ場の整備や宮城オルレの認定などを行うことで、より健康保持に努めやすい環境を整備していく予定です。

第二に、東松島市は、東日本大震災の教訓を活かして、防災に対する備えは他と比べても大変整備されています（備蓄倉庫や、地域自主防災組織など）。次は中身をさらに充実させることが必要で、市民協働・市民総参加のまちづくりの特長を最大限活かしながら、自助・共助・公助によって地域の力をさらなる防災活動に充てていくことで、更なる持続可能なまちづくりに繋がるでしょう。

その住みやすいまちの土台として、奥松島の観光であったり、スポーツ施設を活かし、交流人口を増やしていくことが重要です。

問. 東松島市SDGs未来都市計画は子供、若者、高齢者に対して人材育成もテーマにしていますが、各世代に対してメッセージはありますか？

答. 子ども達に対しては、夢に向かって頑張ってもらいたいと思います。そのために市は健やかに育つことができる環境を他の地域よりも良くしていきたいと考えています。

若者に対しては、故郷を愛して欲しいですね。もう一度故郷を見つめなおし

て自分たちが次世代を担っていくということを自覚して、これからのまちづくりに参加して欲しい。しかし、そこに住むためには仕事が必要なので、そこは私達が環境を整備していきたい。

高齢者の皆さんに対しては、皆さんがこの東松島を作り上げてきた。その中で元気に暮らしてもらいたい。そのためには色々なところに出てきてもらい、これまで培った能力を発揮してほしいですね。それと同時に自分の健康保持についても力を入れてもらいたい。健康を保持するということは、まちの活性化や医療費の削減などに直接つながります。人口減少社会ということは人材不足ということです、皆さんが生涯現役で活躍してもらおうことが大変重要です。

問. SDGsの17目標（ゴール）について、自治体においては11の「住み続けられるまちづくり」は重要ですが、その他に市長が重視する目標を3つあげるとしたらなんでしょうか？

回. まず、働く場がしっかりとあること（8番）、子育て支援（3番）、農林水産業の発展（2番）は欠かせません。また、既にエネルギーや防災の分野において本市は既に素晴らしい取組を行っていたりもしますし、女性の社会進出も大変重要だと思っている。ただ、行政は17のゴール全てに関係しているので、欲張ったことを言えば17のゴール全てを標準以上にしたいと考えています。それを達成するためではないですが、昨今の地方自治は財政的にも制限されることが多くなってきていますので、国・県との連携を取っていくことがとても重要です。また、東京オリンピック・パラリンピックの聖火が一番初めに到着するのは自衛隊松島基地です。大変名誉なことなので、こういったことを最大限活かして、東松島市をPRしていき、持続可能な住みよいまちづくりを目指していきたいですね。

